

講義名	日本語A（読む）			授業形態	
担当教員	戸田 あゆみ	開講期・曜日・時限	後期 火曜日 4時限		
		単位数	2	履修開始年次	1年生

主題と概要

この授業では、様々なジャンルのアカデミックな文章を読むことを通して、多様な文体に慣れるとともに、大学の学習活動において必要とされるレベルの読解能力を養う。文章を読み進める中で、漢字や文法事項、語彙の学習も合わせて行う。また、日本語能力試験の読解問題に取り組み。

到達目標

様々なジャンルのアカデミックな文章に対する読解能力の獲得を目指す。
文章の構成や展開の形を理解し、文章の要点や筆者の意図が理解できるようになる。

提出課題

毎回、授業のテーマに即したワークシートを配布するので、指示に従ってそれを完成させる。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

ワークシート、宿題、小テスト等は添削して返却する。受講生の多くに間違いが見られた問題に関しては、再度解説を行う。

評価の基準

授業中の課題達成度（20%）、小テスト等（20%）、中間の理解度確認（30%）、期末の理解度確認（30%）
授業を5回以上欠席した受講生については、成績評価の対象から外す。

履修にあたっての注意・助言他

毎回の授業で出席をとる。
授業中の私語及びスマホ等の不必要な使用は慎むこと。
日常的に予習、復習を心がけ、日本語に触れる環境を意識して作ること。

教科書

.使用しない。

参考図書

.なし。

その他

プリント資料等は必要に応じて配布する。文献は適宜指示する。

授業計画

- 1 授業の進め方及び注意事項、スケジュール、評価方法を説明する
- 2 読解・読解文 評論文を読んで論点や要点を理解し、まとめとして内容を要約する
- 3 読解・読解文 前週に続き評論文を読んで論点や要点を理解し、まとめとして内容を要約する
- 4 エッセイ 口語体に近い表現の文章を読んで、論説文との文体の違いを理解する
- 5 エッセイ 前週に続き口語体に近い表現の文章を読んで、論説文との文体の違いを理解する
- 6 小説を読む 背景や情景を思い浮かべながら、物語が伝えようとしている内容を探る
- 7 小説を読む 前週に続き背景や情景を思い浮かべながら、物語が伝えようとしている内容を探る
- 8 中間の理解度確認
- 9 社会学に関する文 新聞記事などを読んで、現在の社会で話題、問題となっている事柄について理解する
- 10 政治に関する文 新聞記事などを読んで、日本の政治問題について考える
- 11 科学技術に関する文 新聞記事などを読んで、技術開発の分野で注目されている事柄について理解する
- 12 データを伴った文 グラフなどの参考資料を参照して数値を確かめながら、ある事実の大きさを理解する
- 13 能力試験読解問題 問題文の指示に従い、文章の中で注目すべきポイントを探る
- 14 能力試験読解問題 前週に続き問題文の指示に従い、文章の中で注目すべきポイントを探る
- 15 期末の理解度確認

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

当週に学習した項目について、理解に時間を要した部分を中心に復習し、次週の授業に向けて準備すること。（120分程度）
学習内容の定着を図るため、また小テスト対策として、学習語彙や機能語を用いた作成練習などを行うこと。（120分程度）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

習や志を持ち、自身のキャリアを考えながら物事に自ら進んで取り組むことができるようになる。
自身やグループ、組織の総体発目、課題解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・整理し、解決できるようになる。
他者に働きかけ、協力を取り付けることができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考